



### 対談：長期投資の基本を語ろう

澤上 篤人氏、岡本 和久  
レポーター： 赤堀 薫里

長年の長期投資仲間、澤上篤人さんとたっぷり投資の基本について語り合いました。二人とも証券界に入った途端に1971年のニクソンショックの洗礼を受け、その後、幾多の山や谷を経験してきました。その結果、学んできたことは驚くほど共通項があります。マーケットも波乱含みのいま、長期投資の心構えの参考になれば幸いです。

岡本：今回は、あえて特定のテーマに絞らずに話しを進めたいと思います。最近のマーケットは不透明な要因も多いし、なにやら波乱含みの感がありますが、澤上さんが長年の経験から、今のマーケットについてどのように感じているか、聞かせてください。

澤上：改めて感じるのは、やっぱり投資というのは経験ということだね。

岡本：確かにそうですね。

澤上：振り返ると、我々は何度も同じ経験をしてきたけど、その度に毎回、毎回、メディアは、世の中が終わるかのような論調で大騒ぎするけれど、全然終わっていないし、我々は生きている。そして、むしろこういう時こそ、本当に価値のある物を買うチャンスであって、そのチャンスをはっきり認識し行動できるためには経験が必要だと思う。

岡本：私は1971年4月に証券会社に入社しましたが、その時の日経平均が2,414円でした。今は上がったり下がったりしているけど大体16,000円くらいですね。これはなにかというと、証券市場の中にいる企業の価値がそれだけ増えたってことだと思います。

株価はその時々で動くもので、例えばオイルショックとか、ニクソンショック、バブル崩壊とか色々あったけど、その間も企業が日々、営々として一生懸命、価値を積み立てていて、結局、その株を持っていることが、企業のオーナーとしての価値を高めたことになるということですよ。

澤上：そう。価値の高まりを保有したことになるんだから、何も怖いことは無い。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本:朝のニュースで「今日のマーケットは」というコーナーがあるけれども、あれが当たったからと言ってどうなんだと思いますね。例え下がるって聞いても、全員が株を売るわけでもないですから。澤上さんは色々と全国を回っておられますが、個人投資家の最近の反応は違ってきていると感じますか？

澤上:うん。変わってきている。この前、出版記念で大阪の書店で講演会をやったんだけど、当初の申し込みは40人強だったのが、店内放送で呼びかけをしたら50人以上が飛び込みでやってきた。たまたま店内にいて放送を聞いたのだろうけど、関心が上がっているんだね。長期投資を語るって言ったら飛び込みでやってきた。そして、2時間話を聞いてくれた。その8割以上が若い人。これはびっくりしたね。そして彼らに「あなた達、投資をしているの？」と聞いてみたら、やっている人もいるけど、やっていない人の方が多い。「預貯金だけです」と言っている。



岡本:だけど長期投資については聞いてみたいって事ですね。

澤上:そう。彼らに「預貯金だけで大丈夫？年金についてどう思っている？」って聞いたら「ダメだと思っています。だから何か考えたいって思っている」って答えるんだよね。つまり、年金もあてにならないし、預貯金も増えていかない。投資しかないけど、投資はやったことない。という事で話を聞きに来た。それが50人以上だからビックリしたんだよね。

岡本:そうですか。私はそれとは真逆の話ですが、この間、ファミリーレストランで食事をした時に、隣の席の30代前半の3人組が投資について話をしている。パチンコとかゲームの会社の事で盛り上がっていて自然と話が聞こえてくる。そうするとどうやら、彼らは何人かのデイトレーダーのブログを毎日チェックしていて、その中で信頼できそうな人を見極めていっているんだと言っている。そして、その人が買ったなら自分も買っていると言っているんですよ。

澤上:怖いね。

岡本:うん。何だかすごく儲かったって言ったと思ったら、今度は、買った会社の株が6日間連続の大幅安で何十万円も損した、なんてことを言って随分盛り上がっているんですね。そんな話をたまたま横で聞いていて、彼らはこれからの事をどんな風に考えているのかなっ



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

て思ったりして。まあ、趣味でやっていて、株式に興味を持ってもらう事自体は悪くないけれど、なんか危ないなど。大損して「二度と株なんてやるものか」となって、将来考えなくてはならない時にも考えなくなってしまうリスクを感じましたね。

澤上:先ほど言った大阪でも、投資は難しいことを考えてはいけないよ。儲けようと考えてはいけないよと言った。やる事をやっていたら、儲かってしまうんだよ。やる事をやっていたら利益は後からついてくるよ。だからリターンって言うでしょと言った。大事なものは投資の勉強ではなくて企業の勉強をなさいって話をした。

岡本:会社の仕組みを知ることは大事ですね。

澤上:そう。それと自分がどういう会社を応援して、追いかけていくかを考える事。なぜかという自分の人生のパートナーとしてずっと追いかける事が大事で。そうすると段々分かってくるはずで、応援する気持ちがあれば暴落の時に買える。投資っていうのは、安く買って高く売るだけだから、安い時に買えればあとはいつでも売れる。それと、中途半端に勉強すればするほど買えなくなるね。割高だとか割安だとか余計な事を考えてしまうようになる。

岡本:それは投資の勉強というよりも、株価の勉強に近いですね。

澤上:そうだね。

岡本:澤上さんは、40年以上マーケットの世界でやってこられて、今まで一番印象に残っている下げの局面はなんですか？

澤上:私はオイルショックもニクソンショックもジュネーブで経験したんだけど、その中でもニクソンショックの時はまだ始めたばかりで「こんな事になってしまっただ変だ」と思った。でも、まわりの長期投資の先輩たちは平気な顔をしている。それに興味が沸いてきて、「なんでこんな時に平気な顔をしているんだろう」って、それから本格的な長期投資について勉強を始めるようになったんですね。

そうしたら、「なるほど。いい物を安く買って、高く売れば良いんだ」と考えるようになって、そこから、とにかくいい物を発掘しておくようになった。

岡本:この世界に入ってすぐに、現在の投資哲学の教材が近くにあったんですね。

澤上:それを経験していたから、オイルショックの時に慌てることは無かったね。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本: ニクソンショックの時、私は入社1年目でした。当時、株価ボードは電光掲示板ではなく黒板でしたね。専門の人が短波放送を聞きながら、株価が下がると青色のチョークで、上がると赤色のチョークで黒板に価格を書き込むんですよね。ニクソンショックのときはその黒板が真っ青になった。上司が「これをよく見ておけ」って言うんです。「こういうのは滅多に見られないぞ」って言われたのを今でも覚えている。印象的な出来事でしたよ。だけどそれも、今チャートで見ると小さな窪みになっているだけです。

澤上: そうだね。後になると、どうってことないんだよね。あの大騒ぎは何だったんだろうって思う、その経験が大事だね。

岡本: リーマンショックも同じでしたね。

澤上: うん。リーマンショックも同じ。だから、投資にとって経験というのが一番大事なんだよね。その時、株価とかマーケットを追っていながらの経験が役に立った。その時は振り回されているんだけど、その変化の時に投資家としてどう対応し、どう行動したかが積み重なっていくうちに、色々なマーケットの変動のときに自分の行動ができるようになった。

岡本: 1987年のブラックマンデーも、今から見るとちょこっと下がっているだけなんだけど、あの時は大騒ぎでしたね。私は当時、東京証券取引所の隣りにオフィスがあったから、取引所の様子を見に行っただけですよ。そうしたらみんな大変なパニック状態になっていましたよ。だけど、午後になって株式部から情報が上がってきたのです。それによると個人投資家からかなりの株式の買い注文が入り始めているという。どうやら今までに無いほどに個人投資家からの買い注文が入っているということが伝わってきた。その頃、機関投資家は「どうしよう」って慌てていたことを考えると、ある意味、個人投資家は上手く動く性質があるんだなと思いますね。勿論、全ての個人投資家ではないけれど、結構正しい行動をする人が多いんですよ。

澤上: うん。静かに自分のペースで投資をしているベテラン勢に、そういう人が多いね。これは統計ではっきり出ている。どういう事かという、主体別売買動向分析を見るとわかることなんだけど、常に個人は売り越しなの。機関投資家とか外国人投資家は売り越したり買い越したりするんだけど個人は売り越し。それがどうしてなのか不思議だったけどあまり考えてみなかった。でもこの前、考えて思ったのが、「そうか。個人投資家は、暴落の時に沢山買って、高くなったら上手いこと売っているからだ。だから金額ベースでは売り越しなんだ」って分かったんですよ。

だけど、そういう事ができるのは自分のペースを持っている人達で、それ以外の個人投資家や投資を始めたばかりの人達の多くは、中途半端に投資の勉強をするから株価だけを追いかけることになっていて、それが残念だし怖いね。





## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本:最近は外国人投資家の動きばかり見ていて主体性がないと感じるんですが、これは何なんですか？

澤上:うん。それに輪を掛けているのが日本の機関投資家。例えば年金の運用は、昔は10年、20年、30年の長期投資は当たり前だった。ところが年金資産が段々積みあがってきた70年代半ばから変な論理が出てきた。年金は大事なお金だから、20年経って他の会社よりパフォーマンスが悪いと手遅れになる。だから3年毎にチェックしよう、毎年成績をチェックしよう、運用状況が悪かったら運用先を変えようってなっちゃった。この考えが一気に進んでしまって、長期投資を前提にしていたのが短期の勝負に変わっちゃった。つまり、投資運用ではなく、はっきり言って資金運用とか資金転がしになっちゃった。これを世界最大の年金スポンサーがやっちゃったから、世界中の年金運用に群がっていた運用会社が短期の資金運用を始めた。そしてその太い流れに、コンピューター化とマーケット理論の発展が重なって、市場でどう立ち回るかの統計・確率・分析の方向に向かっていて、これらは全て資金運用にはぴったりだったんだけど、長期投資には関係が無い話なんだよね。

岡本:それは結局、運用している人達が、上手いかなかった時の言い訳をするためにやっているように聞こえてきますね。理論武装ばかりしているけど、マーケットは常に理論通りに動くわけではない。ある意味、投資理論が明らかにしているのは短期的な株価は予測できないということなのだけど、何か理論によって短期的な成績を正当化しようとしているように見える。

澤上:そう。それは所詮マーケットを追いかける上での理論であって、それは投資ではないよね。この一番大事なところが狂って30年以上経っている訳なんだよね。その間、世界中が資金運用ばかりやっていて、資産運用をほとんどやってこなかった。そのなかで長期投資をしている機関投資家の80%くらいがインデックス先物での運用をやっていた。インデックス先物だとリサーチ方法が違ってマクロの視点でマーケットがどう動くか考えるから、本来の株式投資をやらなくなった。いかに瞬時に動くかになってしまって、まともな資産運用が無くなってしまった。そういった中で、個人投資家に対してまともな資産運用をやらうと言うのは気の毒だった。だから我々の存在があるのかも知れないけれど。

岡本:個人投資家には時間的な制約があるわけではないから、ある意味で機関投資家は可哀想な立場かも知れませんね。気持ちとしては長期投資をしたいけれど、現実には四半期ごとに評価されて、何期か悪い成績が続けば解約されてしまう。そうすると、会社の都合もあるだろうから、どうしても短期に走らなくてはならない。せめて勝つまではいかななくても平均点くらいにしておきたいってなってしまいますよね。だけど、個人にはそういう制約はないから、最終的には個人の方が良いのかもしれないですね。

澤上:それは間違いのないね。それに結果も出ているしね。さっき言ったように個人投資家が常に売



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

り越してことは儲かっている証明なんだよ。それで、それを新しい個人投資家にいかに勉強してもらうかが大事だね。それは岡本さんがやられているようなことや我々の長期投資がやっていくことなんだよね。

岡本:なんか、年金の不安を煽って、それで投資熱を掻き立てようとする動きも一部であったりするけど、あまりそういうのには乗らないでほしいですね。もちろん、危機感を持つのは悪いことではないし、将来の自分はいまの自分が支えるという意識は絶対に必要だけど、あまりそこでバタバタして「儲けなきゃ」ってなると逆効果です。

澤上:そう。正しい方法論をしっかりと身に着けないとダメだね。その辺が悩ましいところなんだよね。

ちょっと話は横に飛ぶんだけど、実は今、ある企画を進めています。どういう事をやっているかと言うと、今、全国各地でいわゆるファイナンシャル・インディペンデンスに到達した人達が出てきている。同時にそれが見えてきた人達もいる。そういう人 50、60 名くらいに個別取材をして、それを一冊の本にしようとしている。

岡本:なるほど。

澤上:それで私の知っている人達に声を掛けたら、みんな実名 OK、写真も OK で「出ます」と言ってくれた。

岡本:みなさん一般の方ですか？

澤上:そう。普通の人達。彼らは月々投資をしていたらいつの間にか「え。こんなにお金が増えて良いの」となった人達で、今度はその先の格好良くお金を使う世界っていうのを勉強したりしている。あるいは、それが見えてきている人達。

岡本:50 人もいるんですか？

澤上:もっというけど、50 人か 60 人くらいに絞ったんだよ。

岡本:北から南まで日本全国ですか？

澤上:そう。

岡本:それは面白いですね。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

澤上:うん。こういう本が、これからの人達の指針になるんじゃないかと期待している。

岡本:竹川美奈子さんも同じように個人投資家の体験談を集めた本を書かれていましたね。

澤上:竹川さんや我々が経験したことだけでなく、実際に体験した人達が自分達の声を本にして、考え方や人生を語ってもらおうと思っている。みんな長期投資をしてきて良かったって言っている。これは9月か10月に出したいと思っている。

岡本:「投資家になろう」なんて言う掛け声を掛けてやるのではなく、ごく普通の生活の一部として、普通にやれば良いって事ですね。

澤上:そうそう。普通にやっていたらなっちゃった、そんな感じ。それら生の声を普通に語ってもらって普通に書く。写真はごく一部の人は断られたけど、実名はみんなOK。これは普通の人の強みだよ。自分の生活の一部としてやっているだけだから。それで、その流れの中で自然にファイナンシャル・インディペンデンスを実現したので、それをみんなにも知って欲しいって事だよ。

岡本:彼らが言っているファイナシャル・インディペンデンスっていう基準は、どれくらいの事なんでしょう？

澤上:これは人によって違う。5千万円や1億円の人もあるし、2千万円や3千万円の人もある。自分が安心できるお金があって、すごく楽になったし、他の事にはとらわれない様になって、年金不安もどこかに行ってしまった。そういう水準だね。これを語ってくれているのが面白いよ。田舎に住んでいたりして色々な角度でね。

岡本:私が最近言うのはね、例えば30歳が65歳まで働いて、66歳から退職後の生活をするといった場合、30歳のときの収入が100だとしたらそのうち70を今の生活に充てて、残りの30を将来の生活のために残す。それを何もしないで置いておいたら66歳の時に30ですね。そうすると70で暮らしていたのが30に下がってしまう。要するに退職後の金融面での一番の大きなリスクは生活の質が大幅に下がってしまうという事ですね。そういう事で、仮に2%で運用できたとして36年だから「72の法則」で60になっていますね。そうすると70の生活が60だから少しだけ減るけど、少しは年金も出たりするからなんとかなるかも知れない。そうすると、31歳の時が67歳の分で32歳が68歳の分だと、毎年毎年36年投資をずっとやっていく。若いうちはそれほどたくさん将来のために取っておけないでしょうから、その分高めのリスクをとる。でも、中年を過ぎてきたらリスクはやや抑えめにして、その分将来のための金額を増やす。そんな考えでやっていった方が退職時点でどれくらい必要かって考えるよりも、なんか実感がわくような気がしています。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

澤上:なるほど。その時大事なのが、出来るだけ早いうちにその事に気がついて始めることだね。つまり時間が欲しいよね。だって気がついたのが 59 歳だったらまずいよね。

岡本:その場合はもう仕方がないですね。「生活の質」の基準を変えなさいと言います。金銭的には手遅れです。むしろ、お金の依存しない幸福感を求めるときでしょう。



澤上:やっぱり我々がやりたい事は、結局、若い人達に訴えることだね。そして若いうちから考えて行動してもらうことが大事になるね。そういうムーブメントを作っていきたいんだよね。

岡本:私が毎月やっているマンスリー・セミナーで、毎回来てくれている人が、ある時、大学に入学した息子連れしてきたことがありました。その子が、大学に入学してバイトを初めてからお金を貯めているという話になって、詳しく聞くと入学した月から毎月 1 万円、株式投信の積立投資を始めた。今は月 2 万円にしたそうです。大学卒業するまでに 300 万円の資産に増やしたいと言っているそうです。やっぱりこれくらいの年齢から始めると良いですよ。

澤上:うん。いいね。これは大きいね。

岡本:やっぱり高校を卒業してバイトも始めて、少しでも収入があったらその一部を積立てるってことができるの良いですね。

澤上:うん。そういう考え方を広めたいね。今までは余ったら貯蓄をしようっていうのが普通だったけど、貯蓄の代わりに長期投資しましょうにというのに変えたいね。

岡本:そうですね。それで貯めたお金をゲームとかパチンコ株で投機をするデイトレーダーのブログを見て投資するのではなくて、とにかくずっと続けるってことをしてほしいですね。

澤上:面白いことにね、まともに長期投資で企業の応援をしてお金が増えてきた人達って、応援することの意義とか面白さを知るから、お金の使い方がギャンブルみたいなものには行かない。ものすごくまともになるね。





## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本: 堅実になるってことですね。

澤上: うん。それが格好の良いお金の使い方、長期投資の先に広がる第二段階だってことを最近ずっと言っている。その第二段階に向かっている人達は、元々、お金の増やし方がしっかり企業を応援しながら、マーケットに振り回されずに、じっくり丁寧にお金を増やしている。そういう人達のお金って言うのは非常に健全で、重みや質量が伴っているから簡単に飛んでいかないね。

岡本: 結局長い時間を掛けて積み上げたお金には、そこに想いがこもっていますよね。

澤上: そうそう。それが大事だよな。

岡本: イージーカム、イージーゴーではなくて、何年も何年も積み立ててできているお金だから、使うときにはよく考える。

澤上: うん。良い使い方を考えるよね。もうひとつ、大事なのは、積み立ては預貯金とは違うって事。預貯金は使い道を金融機関に丸投げすることなんだよね。丸投げだからあんまり、想いがこもらない。預けていたら勝手に増えるから無責任だね。

岡本: 利息だけ貰えたらいいやってことですね。

澤上: ところが、投資の場合は自分の意思や夢を自分のお金に託しているから、この違いが、財産としてできあがった時に使い方として変わってくる。だから長期投資をやることによって、その先の人生も大きく変わりますよ。預貯金で増えた人とは全く違う。

岡本: 同じように、ネットで短期のトレードをしている人達というのは、スクリーン上の株価しか見ていない。その株価の後ろ側に企業があって、企業でどんな人達が働いていて、どんな思いでどんな仕事をしているかだとか、その企業が世の中にとってどんな役に立っているのか、そのような事にはあまり想いが至らない。株価という数字だけなんですよね。

澤上: そう。数字ばかり追っているからそれしかない。だけど我々は違う。中身を見ている。生活だとか企業価値だとかも見ているから、その重みが違う。

岡本: そ「物心一如」という物と心はひとつであるという言葉がありますが、お金にも心をどれくらい込めるかが大事ですね。

澤上: うん。元々の投資っていうのはそういうことなんだよね。ただ儲かれば良い訳じゃない。お金



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

に心や想いを込められるかなんだよね。こういう一番大事なところがみんな分かっていない。ポーンと抜けてしまっている。これが問題なんだよね。

岡本:それはどうしてなのでしょう？今は投資が手軽になりすぎてしまったというのもあるんでしょうか？売ったり買ったりがボタン1つでできるようになりましたけど。

澤上:今は、いつでもどこからでもできるからね。昔だと例えば、アメリカの大陸横断鉄道建設にヨーロッパの資本が向かったけど、あの時は買い注文を出すのに3週間かかった。大西洋を渡っていくからね。それで約定結果が分かるのもまた3週間かかった。6~7週間かかって、ようやく自分を買えたって分かる。もちろん売る時も同じ。だから始めから終わりまで価値の高まりに自信がなければ、とてもじゃないけど投資できない。株式っていうのはそういうものなんだよね。それが今はマーケットをどう泳ぐか、マーケットでどう立ち回るか、つまりマーケットを相手にしている。価値の高まりじゃなくてね。

岡本:昔、私がニューヨークの支店にいた頃、60年代の終わり頃にロサンゼルスで若手として働いていたのがいたんだけど、彼が言っていましたよ。「地元の日系人から株式の注文をもらうとき、東京から届いた1週間前の新聞で株価を見て、それで郵便で買い注文を送る。約定伝票は更にそのあと1週間したら送られてくるんだよ」って。そういう時代でしたよね。そんな話を聞くとのんびりしていてね、今は良い時代になったのかもしれないけど、でも、ちょっとノスタルジアも感じちゃいますよね。

澤上:うん。やっぱり便利になったから、短期思考になったし、想いとか心をどこかに置いてきてしまったのかも知れないね。

岡本:数秒間で何万回みたいな取引をする仕組みが出てきて、まあ、それはそれでやってもらったら良いんですけどね。

澤上:うん。マーケットは好きにやってもらって良いんだよ。

岡本:でも、それは本当の投資とは違うんですよね。そこを個人投資家もきちんと理解しないといけない。

澤上:うん。それはさっき言った資金運用とか資金転がしだね。それは好きな人がやれば良いんだよ。だけど我々はほとんど資産運用って何なのかと、これは方向を正しく勉強をしつつ、実体験や経験を積んでいく事だね。これが一番強いよ。

岡本:はい。それしかないですね。だけど、なかなか限りが無いですから、40何年やってもま



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

だまだわからない事ばかりだし、それこそ永久にわからないかもしれませんね。

今、デフレだ、デフレだって言っているけど、70年代の終わりや80年代の初めの頃は、インフレだ、インフレだって言っていた。まさかデフレが来るなんて誰も思っていなかった時代だったですからね。また今から20年も経ってみると、全然変わっているかもしれませんね。

澤上:ひとつはっきりしているのは、今の世界の人口73億人が2050年に97億。35年で24億人って事は一日あたり17万8千人増えるんだよね、世界的にみたら。そう考えると、その分だけでも色々な需要が高まるんだよね。

岡本:それに生活に質も段々と上昇していますからね。

澤上:うん。人口増加と質の向上の掛け算だからね。長期的に見たら構造的にインフレ要因なんだよね。

岡本:世界中でインフラ投資も技術開発も起こりますね。まあ、中国がダメでも、英国やEUがガタガタしても、他の国の何らかの企業が需要を満たしていきますよね。

澤上:中国の13億5千万人が豊かな生活を知ってしまったからね。知ってしまったらもう戻れないから上に行くしかない。この人達のニーズがこれからどんどん表面化していくから世界経済は拡大していくに決まっているんだよね。それに対して資源とかはボロボロでしょ。だけど長期投資家としては買ってあげばいいだろうって思うよね。

岡本:結局こうやって需要サイドが拡大する時に、それを満たしていくのは国や政府ではなくて民間企業なんですよ。望むものを提供する企業がメリットを享受して成長していくんですよ。

澤上:そう。そういう企業を応援しておけば良いわけ。それだけの事だから簡単なんだよね。それを余計な事を考え出して、マーケットに振り回されるからメチャクチャになる。そんなのいらないの。

岡本:本当にそうですよね。ところで英国がEUから離脱することを国民投票で決めたり、最近、グローバル化に対する反作用が目立つように思います。その点、どんなお考えを持っていますか？

澤上:これは分かりきった話で、日本経済の高度成長を思い出すと簡単です。なぜ日本が高度成長できたかという、経済のグローバル化、つまり自由経済なんだよね。この自由経済っていうのは大事な考え方で、自由経済を倒すための流れっていうのは一時的には良いかもし



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

れないけど続かない。だから自由経済の中で生き抜いていくのが大事だね。

岡本:そうですね。だから反作用はメガトレンドの中でさざ波みたいなものだと思います。多分アメリカのトランプさんもそうなんでしょうけど。

まあ、人類が誕生してから、グローバル化と技術開発ってのはずっと続いているわけで、その間にさざ波的な反作用は時には出てくるけど、それは長くは続かないですね。物の値段がずっと上がっていくのも、人類が誕生してからの流れであって、当時はお金は無かったんだけど、より多くのものを求めるのは人類の夢で、それは変わらないし、与えられる以上のものを欲しがっているんですからね。

さっき、私が社会に出た時の日経平均が 2,414 円だって言いましたね。その時のカレーライス 1 皿の値段が 135 円でしたが、今は 700 円くらい。だからあのまま 135 円を引き出しにしていたらカレーは食べられないですよ。日経平均並みの投資収益をあげていたならおつりがくる。

澤上:うん。今の生活を維持するにしても、例えデフレがあったとしても、もうちょっと良くなりたいっていう庶民の望みがあるから、必ず上がっていくよね。

セミナーでよく話をするんだけどね、女性に「あなた、毎日お風呂入るよね」って聞くと「入ります」って答える。「じゃあ、もし 1 週間、2 週間お風呂入れないって言われたらどうする」って聞くと、「いや、あり得ない」って言うんです。毎日シャンプーして体洗うのが当たり前になっているけど、何十年か前は毎日なんて入ってなかった。内風呂も無いし、タオルで体拭いたりしていたんだよね。だけど、今の当たり前がどんどん増えていって戻ることがないから、世界経済は拡大するに決まっているんだよね。

岡本:はい。本当にそんなに昔では無かったけど、蛇口を捻ればお湯が出るなんて無かったですよね。今はそうでないとやっていけないけど。それと、私が小学生の頃は洗濯板使っていました。もちろん冷たい水です。冷蔵庫は氷屋さんで大きな氷のかたまりを買ってきて上の段に置いていた。それがいつのまにか電気になって、白黒テレビがカラーテレビになってね。

澤上:人々の生活が豊かになると戻りっこないし、伸びる要素は世界中に溢れている。そう考えたら、世界経済の拡大を支えている企業活動っていうのは経営がしっかりしていれば、伸びるに決まっているね。

岡本:結局、世界経済の成長を支えているのは民間企業で、その民間企業は誰がドライバーかと言うと個人の人々の生活なんですよ。

澤上:そう。人々の生活と企業活動とは噛み合っている関係で、それ以外はなんにも無いんだよね。





## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本: はい。一人の生活者は、あるときは消費者だし、あるときは従業員だし、またあるときは出資者になって、社会という総合体として、こうなったら良いなという想いを民間企業に託して、それが世界の成長を牽引していく。そういうことですね。

澤上: もうひとつ付け加えたい事があって、企業と生活者は噛み合っている関係なんだけど、そこに長期投資の考えを入れてあげることによってオーナーシップ、つまり企業のオーナーとしての考えが加わり、かつ、企業の消費者としての考えの両方が生まれ、そうすると最近のマーケットの歪み、要するに機関投資家が短期で資金運用をしている。ここには企業を応援する気は更々ない大口投資家の動きが表面化したものなんだけど、そうした場合、誰が企業を守るかと言ったら、生活者の投資家っていう概念、或いは消費者株主っていう概念が大事になるね。それで企業の方も、その重要性をまだ分かっていないから、もっと認識していないとダメだね。自分達企業の本当の応援団は誰かを考えないと。

岡本: それから同時に、生活者自体が自分達が地域社会を作っているんだという意識を持っていてはいけない。だれかスーパー・ヒーローが突如現れて、我々はこの人について行けば幸せな所にいけるなんて、本当はそんなものではなくて、結局は自分達なんですよ。

澤上: 自分達の生活ポリシーあるいは企業応援ポリシー、これが自分達の将来を作っていくんだよね。つまり、どんな企業を選ぶか、どんな世の中を思い描くか、それでこの想いや将来構想力を消費や投資に反映させることによって、良い社会になるんだよね。だから良い社会を作るのは、生活者の責任なんだよね。そうすると自ずと行動もしっかりしたものになるからね。ここがすごく大事だよ。

岡本: それで、さっきのお金の使い方っていう話ですが、自分が大事に、大事に、育てて大きくしてきたお金を、どういう風にしたら一番良い社会ができるかを考えて使うのと、ただ使ってしまうのでは大きく違ってきますね。

澤上: うん。全然違うよ。やっぱりさっきの本の人達じゃないけど、長期投資をしている人達は、頼もしくなるくらいまともだね。長年時間を掛けて作ってきただけあって、時間の重みがお金の使い方に出る。しっかりしている。

岡本: まあ、なんか今まで流動性がマーケット全体を支配している面があって、要するに金の量だけで戦っているようなものだった。だけど、実態経済が増えていないのに金の量だけが増えるっていうのは、つまり、1円あたりの投資のリターンが減っていくってことだから、結局減っていくリターンをなんとかしようとしてレバレッジを掛けたり、短期で売買したり、格付の低いものを選んだり、そういう事をやってきた。でも、今は非常に大きな曲がり角にあって、ある



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

意味、正常化に向かいつつあるのでしょうか。そういう過程において、これから相当な大幅高もあれば、大幅安もあり得るブレの大きい相場の変動になりそうな気がします。

澤上:元々、金融っていうのは経済の潤滑油とか血液だから、実態経済と離れづらいものなんだよね。だけど、これが70年代あたりから一気にお金が膨れ上がっちゃった。膨れ上がって、膨れ上がって、暴れすぎたのが金融バブルになったね。その崩壊でお金が粛清の方向に向かった。ただ、相当大きく膨らみすぎたから損も大きかった。マネーがシュリンクするのに35年かかったから、今度は成長するまでは10年や15年くらいかかるんじゃないかな。その間は荒れたりするし、荒れるほどマーケットを追っている人達にとっては大変だよ。だけど長期投資家は何も大変じゃない。蓄積できているから怖くも何ともない。

岡本:今、30代40代の人達は非常に恵まれていると思いますね。これから10年15年は、このモタモタした相場が続いてくれたら退職するころまでにはかなり資産を蓄積できますよね。

澤上:うん。これから20年したら結果が大きく違ってきますね。

岡本:やっぱり一番大事な事は続ける事ですね。

澤上:そう。方向を間違えずにね。なにせ長期投資だからね。それを我々と一緒にゆっくり歩いて、味わってもらっていけたらきっと良くなる。

岡本:まあ、こういう時って色々な話が出て、資本主義が終わるとか言われますけど、そんなのはどんな時もある話な訳でね。

澤上:人々の生活は何があっても無くならないし、生活を支える企業活動も無くならない。そこだけに焦点を合わせていけば、何にも怖くない。政治がどうだろうが、EUや英国がどうだろうが、中国共産党がぶっ飛ぼうが全然関係無い。

岡本:要はみんなが良い生活を望んでいる。その事実だけがあって、誰かがそれを満たすという事ですね。

澤上:うん。それだけの話。そういう方向に向かってゆっくり歩いてもらいたいね。

岡本:はい。今日はどうもありがとうございました。